

令和5年10月24日

正和会視察報告

報告者 森田哲哉

【視察日】 令和5年10月24日（火）

【場所】 福岡県久留米市シティプラザ

【目的】 文化芸術・広域交流の拠点となっている複合施設の運営状況等を視察し、福生駅西口市街地再開発事業について考察を深める

【参加者】 仲間正司、森田哲哉、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、清水義朋（議席番号順）

【久留米市の概要】

- 面積 229.96 km² ●人口 302,122人 ●人口密度 1,314人/km²
- 世帯数 138,566世帯
- 福岡市・北九州市の政令都市に次ぐ福岡県第三の都市、福岡県久留米市は、九州北部、福岡県南西部に位置し、福岡県第3位の人口約30万人を有する街である。また、全国の政令市と中核市をあわせた67都市中、人口10万人あたりの医師数は全国1位であり、病院・診療所数は全国8位。また久留米市は(ものづくりのDNAを持つまち)としてブリジストン発祥の地であり、東芝の礎を築いた東洋のエジソンとも言われた田中久重を排出した街でもある。成長可能性都市ランキング及びポテンシャルランキングは常に上位に入っ

いる。

【シティプラザの立地】

JR 久留米駅と西鉄久留米駅の間に位置し、西鉄久留米駅から続く古いアーケード商店街の突端に接しており、どちらからも人流があり歓楽街の入り口でもある。

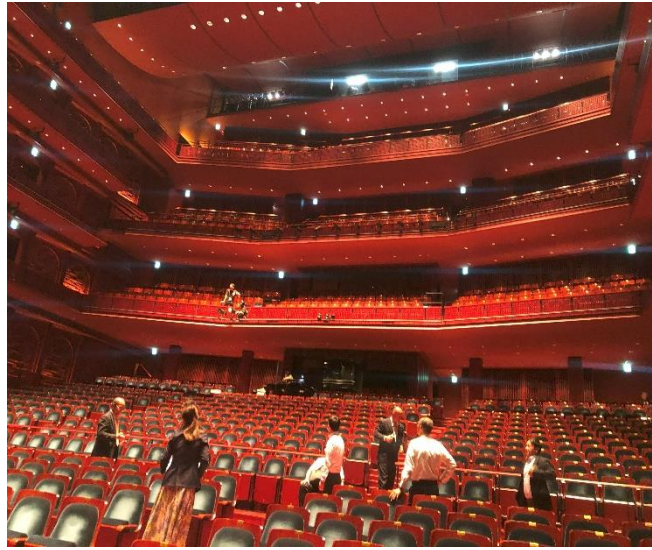
【シティプラザの位置づけ】

施設設備が老朽化し、話題性のある鑑賞公演を開催出来ない市民会館の建替えの必要性や、医療や高等教育機関が集積しながらも、学会等の受皿となる施設が不足、また大手スーパーの相次ぐ閉店を受け、中心市街の求心力が著しく低下した為、平成 23 年 2 月に整備基本方針が策定され、こうした諸課題を補完するホール機能とコンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興と街中の賑わい創出による中心市街地活性化を図る為に建設されている。

ここは久留米の新たなランドマークであり、以下の 4 つのコンセプトを持って稼働している。

① 文化芸術振興の拠点

グランドホールの音響性能を活かした良質で幅広い音楽事業の展開や、市民をはじめ市内外で話題性のある一流の演劇、舞踊、演芸など文化芸術を鑑賞できる機会を提供し、集客力のある事業を展開。



1500 席を有する大ホール(前方より)

② 広域交流促進の拠点

久留米観光協会コンベンション国際交流協会と連携し、MICEの積極的誘致及び開催の支援を行っている。

③ 賑わい交流の拠点

街中の賑わい創出の為、市内団体と連携した大型イベントや、日常の賑わいの場を創出するための自主イベントに取り組んでいる。

④ 六ツ門地区の商業拠点

『久留米たまがる大道芸』・『土曜夜市』など中心商店街などと連携した集客イベントを開催することで、中心部の賑わいに大きな相乗効果を生む。

【久留米シティプラザ概要】

平成 23 年の建設準備組合設立より 6 年の歳月をかけ平成 28 年開館。

地上 6 階、地下 2 階

建築面積：9337.76 m²

延床面積：34、548.33 m²

敷地面積：10、672.36 m²

建物高さ：40.15m

【施設機能】

ホール機能(演劇・舞踊・コンサート・大規模会議等の多目的ホール)

① ザ・グランドホール 座席数 1F 808 席 車椅子 10 席

座席数 2F 262 席

座席数 3F 228 席

座席数 4F 216 席

合計 1514 席

② 久留米座(演劇を主目的とし、主舞台と袖舞台を持つ)

座席数 1F 317 席 (車椅子席・柵席含む)

座席数 2F 82 席

合計 369 席

③ Cボックス(舞台、客席は可動式で劇場としてもリハーサルにも使用)

座席数 144 席

- ④ 六角広場(全天候型広場) 面積 1,320 m²
- ⑤ スタジオ1 61 m² 収容人数 43 人
- ⑥ スタジオ2・スタジオ3 105 m² 収容人数 74 人
- ⑦ スタジオ4 67 m² 収容人数 47 人
- ⑧ 展示室1・2・3 全面利用 430 m² シアター形式時 168 人収容
- ⑨ 大会議室(分割使用可) 530 m² 収容人数 max378 人
- ⑩ 中会議室(分割使用可) 240 m² 収容人数 max165 人
- ⑪ 小会議室(分割使用可) 130 m² 収容人数 max91 人
- ⑫ 和室(8畳3室) 138 m² 収容人数 50 人
- ⑬ カタチの森 310 m² (誰もが気軽に立ち寄れるフリースペース)
- ⑭ 六ツ門テラス(緑に満ちた憩いと安らぎのスペース)

【整備の方向性】

- ① ホール機能(演劇、舞踊、コンサート、大規模会議の多目的ホール)
- ② 創造機能(市民が演劇や音楽等の練習や創作・発表の場)
- ③ 交流機能(市民等がそれぞれの交流を深め、ネットワーク化を図る場)
- ④ コンベンション機能(学会等の多彩なコンベンションや展示会等の場)

【建設事業・整備スケジュール】

2011年1月 準備組合設立

2011年11月 都市計画決定

2011年12月 本組合設立認可

2012年12月～10月 基本設計

2013年7月 権利変換期日

2013年8月～9月 工事入札

2013年1月～7月 実施設

計

2013年8月～9月 工事契

約

2013年10月～2016年1月 工事(約28ヶ月)

2016年1月 工事完了公告

2016年2月 施設建築物の登記

2018年3月 組合解散

2016年4月 開館

【整備事業費】

決算額 177.0億円 国庫補助金 41.0億円 合併特例債 125.8億円

都市プラザ整備基金 3.0億円 一般財源 7.2億円

【施設稼働率】

開館以来、優れた音響効果をもつ設備など評判は年々高まり、施設稼働率は上傾向にあったものの、新型コロナウイルス影響もあり令和2年度の稼働率は

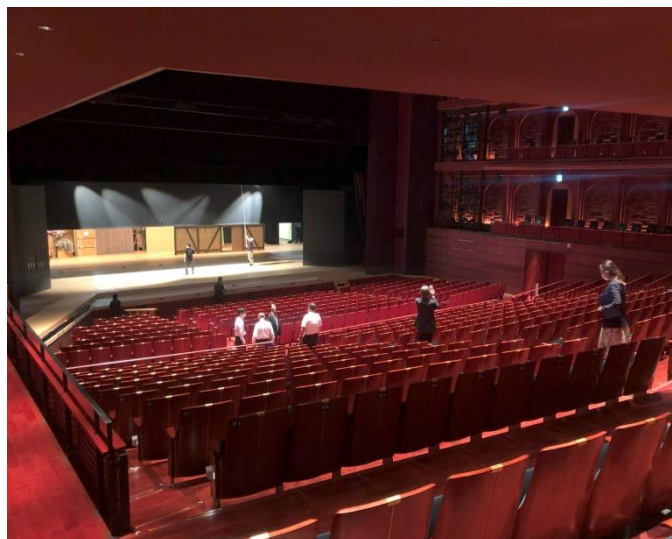
前昇年度に比べホール系は1/2以下、広場は1/3にまで落ち込んでいる。しかしながら令和3・4年度は回復傾向にあるが、コロナ禍以前の稼働に戻るにはもう少し時間を要すると思われる。令和元年度末からの来場者数は7年間で約282万人となっている。

【組織体制】

久留米シティプラザは市の直轄運営であるが、ホール等の運営に関することは、豊富な経験や技量、創造的な発想力を有する専門的なスタッフが必要不可欠なことから、行政職員と専門スタッフ職員を基本に構成している（業務の一部を専門業者等への委託により行っている）。

【所感】

久留米シティプラザは、平成28年4月27日に久留米市中心市街地の六ツ門地区に開館した文化交流施設であり、老朽化した久留米市民会館に替わる文化施設としての機能、医療や企業の発展・交流を促進する為のコンベンション施設としての機能、そして、中心地街活性化の役割を担う中核的施設としての機能を併せ持った



大ホール客席（後から）

施設として、「憩いと賑わいが調和する、文化・活力・創造空間」という基本理念に基づき整備されている。

同施設は、地上6階、地下2階、延床面積は3.4万㎡あり、大中小三つのホールをはじめ、会議室や展示室、スタジオ、全天候型広場など多種多様なスペースがあり、中でも施設最大の目玉となるのが音楽イベントの開催を主目的とした大ホールである。1階から4階までの4層の空間に約1,500の客席を配し、

ホール全体の空間を大きく取ることで優れた音響効果を可能にしており、バリエーションに富んだ規模や形状のホール、会議室といったスペースがある。また、来館されるすべてのお客様に快適な空間を提供するにあたり、温湿度などの室内環境、設備運転に関するデータや



視察の様子

施設内の管理状況を担当者と共有し、温度センサーを設置、モニタリング検証を行うなどして管理している。常に来場者の快適性を最優先に考えたこの施設運用は、今後の福生市西口再開発事業にも大いに取入れる必要があると感じた。